

主任班グループ別研修

研究テーマ『園運営の要としての主任の役割～役割を果たすための力量を身に付ける～』

主任班は、それぞれの立場や園の実状に合わせた研究の視点を窓口として研修に取り組んでいけるよう、主任班1・主任班2に分かれて研修を行った。各グループ、視点に沿った実践や自己課題について話し合い、協議が深まった。また、助言の園長先生からは主任の役割についての話があり意識を高めることができた。

<グループ協議 主任班1 A～Gグループ>

①教育課程の編成（Aグループ）

- ・指導計画の修正の仕方や行事の反省を教育課程にどのように活かすかについて話し合った。教育課程や指導計画の見直しは早めに取り組み、みんなで意見を出し合える方法を工夫したい。

②少人数園に特化した教育課程の編成（Bグループ）

- ・指導計画の内容を複式保育用にするのは難しいが、4・5歳の計画が見やすいように1ページにするなど形式を工夫するとよい。
- ・少人数保育カリキュラムを参考に進めていきたい。

③防災や安全指導による危機管理（Cグループ）

- ・食の安全（誤飲、アレルギーなど）に対して、安全性と何を体験させたいかを考えていくことが必要である。
- ・水遊びの安全指導は、キッズサポーターも含めて共通理解したうえでの指導が大切である。
- ・避難訓練は、目的を押さえることや様々な場面を想定した訓練が必要である。

④発達支援教育の理解と保育の充実（Dグループ）

- ・個別の指導計画は、その学期に特に力を入れて指導したいポイントを絞って記入し、大勢で確認し合うとよいと感じた。
- ・保護者の理解を得るために、具体的な事例を伝えながら子供の困り感を発信していくとよい。

⑤「幼児期に育てたい力」「幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）」の園内研修への活用（Eグループ）

- ・10の姿について後輩へのアドバイスができるよう自分たちが学びを深め、10の姿を折り込んだ研修に努めたい。
- ・研修の中で、誰もが考えを伝え合うことのできる関係性作りを大切にしたい。

⑥幼小の円滑な接続（Fグループ）

- ・就学に向けて、外国籍の子供や保護者への支援、子供たちに生活力（自分で行う力）を身に付けることの大切さについて共通理解できた。
- ・今回は「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」を読み、園で実践していることや今後の取り組みについて検討をする。

⑦家庭への発信の仕方や保護者対応（Gグループ）

- ・対応が難しい事例を出し合い、対応の仕方について意見交換ができた。
- ・経験の浅い職員は対応の仕方がわからないため、育成も兼ねて寄り添いが必要である。
- ・外国人保護者とのコミュニケーションツールやコツについて共有することができた。



主任班1 ～助言者御指導（抜粋）～

- ・主任のポジションは園全体を見ていろいろなことを動かしていく楽しさがある。主任自ら楽しむことが楽しい幼稚園につながるため、主任という職を楽しんでほしい。
- ・教師たるもの5者になれ＝教師は5つの顔（側面）をもつ必要がある。①役者（いろいろな表情を見せる）、②医者（体や心の具合を見る）、③学者（教育方法などを学ぶ）、④易者（危機管理能力、分析力）、⑤芸者（励ましやる気をもたせる力）
- ・幼小連携のためには、文科省から出た「幼保小の架け橋プログラム」の資料の内容をよく読み取っておくとよい。
- ・園長と主任がしっかりと話をし、十分連携をとることが大切である。園長と主任のよい関係性はよい園運営や園の信頼にもつながることを意識して取り組んでほしい。

<グループ協議 主任班2 H～Mグループ>

①少人数園に特化した教育課程の編成（Hグループ）

- ・目の前の子供たちに必要な経験を押さえ、柔軟な保育のあり方を考え進めていきたい。
- ・少人数だからこそできる行事もあるため、一人一人の見せ場を作り自信を付ける場としたい。

②防災や安全指導による危機管理（Iグループ）

- ・場や状況に応じてマニュアルを変更していく必要を感じる。
- ・今後は、熱中症予防、プール指導、怪我の対応などの意識付けの仕方や職員間での共通理解の仕方などについて、具体的な実践や改善策を協議する。

③発達支援教育の理解と保育の充実（Jグループ）

- ・その子に合った支援方法を探るために、困り感を見極めることや職員間で情報を共有しみんなで考えることが必要である。
- ・保護者と連携を図り、園と家庭が同じ方向性で支援をすること、専門家のアドバイスを取り入れていくことを大切にしていく。

④「幼児期に育てたい力」「幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）」の園内研修への活用（Kグループ）

- ・どの職員も話しやすいような雰囲気づくりや、写真などの活用をしていくとよい。
- ・園の実情や職員構成も踏まえた柔軟な研修のもち方に努めたい。

⑤幼小の円滑な接続（Lグループ）

- ・子供たちが安心して進学し、たくましく生活できるように、日々の保育や行事を通してどのような資質・能力が育まれるかを教師が意識していくことが大切である。

⑥家庭への発信の仕方や保護者対応（Mグループ）

- ・保護者からの要望などは、一人で対応せず園全体で協力体制をとり、情報を共有し、園として一貫した対応と誠意ある態度に心掛けることが大切である。



主任班2 ～助言者御指導（抜粋）～

- ・グループの協議視点に沿った具体的な指導があった。
- ・主任は保護者と担任、担任と園長等のパイプ役である。職員の士気を高めながら保育実践の姿を見せることで、若い先生方に様々な保育の仕方を伝えることに努めてほしい。
- ・風通しのよい学級、風通しのよい職員関係、風通しのよい園をチームで作り上げてほしい。